

出会い ふれあい 助け合い

サロンのあべの

VOL.198

いのち 生命あふれる樹々の話

〔サロン・あべの〕11月の出会い

平成14年11月16日(土)、〔サロン・あべの〕11月の出会いは、育徳コミュニティーセンター2階研修室に於て、松村順子氏に「生命あふれる樹々の話」をしていただきました。松村順子氏は環境問題やそれに伴うリサイクル活動に深い関心を持たれており、サイクルや活動部会で

数多くの研究発表も行つておられます。また、ご自身は「アベノリサイクル委員会」を主宰。会報「緑の風だより」を

発

行し、身近なりサイクルについて研究発表や意見を述べられています。

この日、お話いただきました

ある時期、体調を整えるために自宅から何キロと距離を決めて散歩することになりました。自宅は阿倍野区内のほぼ中心にあります。



樹齢800年の法楽寺のクスノキ

足の向くまま気の向くままに散歩をしていくうちに、街路樹や並木道などとは違ういろいろな木樹があることに気づきました。いろいろな場所のいろいろな木樹。一本の樹でも年輪

「生命あふれる樹々の話」もその樹々の環境問題やリサイクル活動の中から気づかれた街の景観を重ねた樹を見るとその樹から、喜びや哀しみ、優しさや力強さなど、物言わぬ樹でありながら五感を通して樹の思い

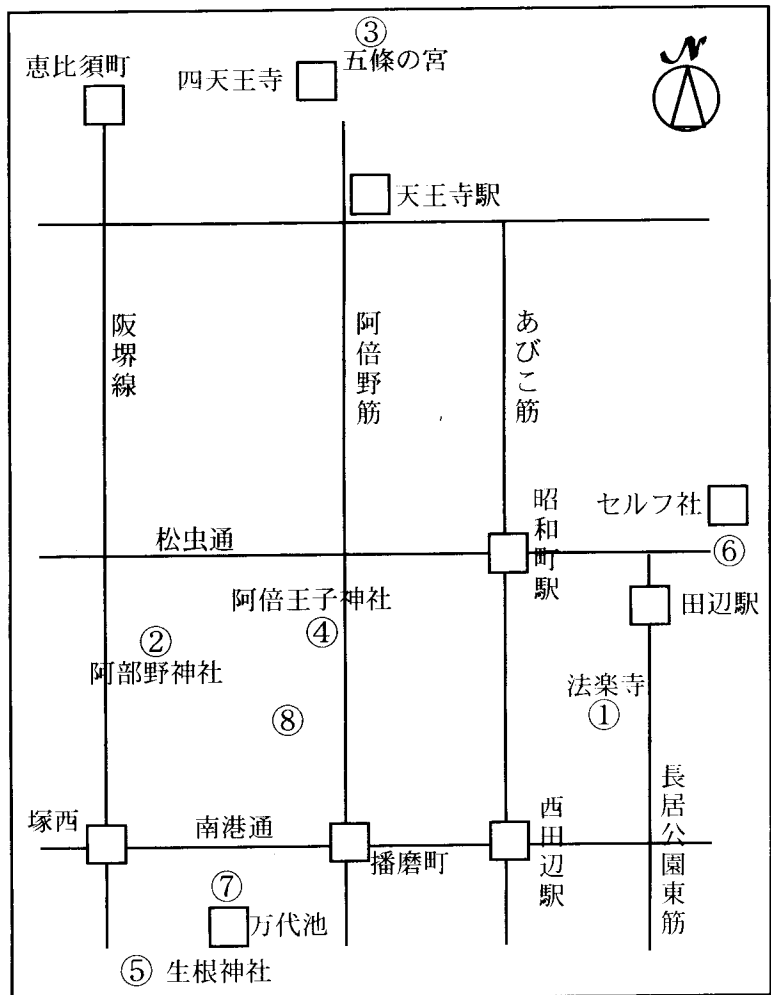
を感じ取れる気がしてきました。その語りかける力を持った樹を写真に撮り、それをスライドに仕立てて研究発表をしてきました。どの樹もそれぞれ主張を持っていて、見る人に多くのことを語りかけてくれる気がします。と、写真への思いを語っていた後、チヨンと拍子木の音が入り、室内は暗転。スライドに映し出される木樹の話が始まりました。

① 法楽寺（東住吉区）のクスノキは樹齢800年。樹高26m、幹周り8mほど

のこの樹は豊かな枝ぶりで見ただけで感動する立派なご神木。大阪府天然記念物に指定されている。

② 阿部野神社（阿倍野区）にあるメタセコイヤの樹。ジェーン台風で倒れた松の後に植

生命あふれる樹々



- ① クスノキ（法楽寺）
- ② メタセコイヤ（阿部野神社）
- ③ イチヨウ（五條の宮）
- ④ クスノキ（阿倍王子神社）
- ⑤ ムク（生根神社）
- ⑥ クスノキ（北田辺）
- ⑦ ヤシ（万代池）
- ⑧ 元気のいい樹

えられた。大きな樹になり夏の緑が豊かに茂る。冬は裸樹になってすくつと立つ。

③ 五條の宮（天王寺区）にあるイチヨウの樹は、樹齢50年ほどで太い幹も痛んでいたが、昭和60年3月に樹医の

手当てを受けて、以来18年間、とゴムベルトが巻かれている。生命力が強くなり春には芽吹き、夏には青々と茂り、秋にはギンナンの実を付ける。その力強さは治療された患部の被いであるコンクリートも押し

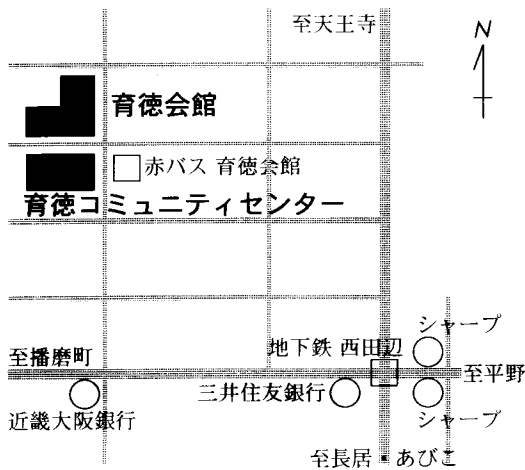
のけるほどで、今はしっかりと

④ 阿倍王子神社（阿倍野区）には、今3本のご神体のクスノキがある。ペアになっている茂杜能霊のクスノキと、思真能霊のクスノキと他に、思貴能霊のクスノキで、これ

お知らせ

<サロン・あべの> 1月の出会い

日 時…1月18日(土) 午後1時～4時
 内 容…映画鑑賞 (DVD)
 ハリーポッター・賢者の石
 場 所…育徳コミュニティセンター2階
 研修室(スロープ・車いすトイレ有)
 大阪市阿倍野区阪南町 5-15-28
 TEL. 06-6621-1901
 最寄り駅= 地下鉄御堂筋線「西田辺」
 赤バス「育徳会館」下車すぐ
 会 費…なし
 問い合わせ先…
 TEL 06-6691-1028 (富田慶子)



らは昭和55年に大阪市の保存樹に指定されている。ペアの方は神社南側に隣接するマンションのお邪魔にならないようにと大胆に矯正されている。

⑤ 生根神社(住吉区)にはムクの樹がある。この樹は大きくなり、家の屋根を譲られている。見るだけで感動する。

⑥ 北田辺(東住吉区)には、クリート(東住吉区)には、クリートを壊し、根が割れ目切られている。土地の事情も

道路を作るときに住民の願いからそのクスノキを動かさず迂回路を通した樹がある。

⑦ 住吉区の民家には、背の高いヤシの樹がある。その他、散歩をしているときまざまな形態の木樹に出会う。コンクリートで地面を被われているので、自らの力でコンクリートを壊し、根が割れ目切られている。土地の事情も

から出ていたり(⑧)、扉に邪魔されながらもくると曲がって伸びて行く樹など、姿形は変化しても樹の思いは力強く上へ上へと伸びて行く。人は木の思いを考えないで切っている。街の生け垣も少なくなったり、家々にあつた桜の木も毛虫や落ち葉が嫌われて切られている。土地の事情も

あり、個人所有の木などに街の自然の景観などと話がしにくい面もあるが、木はその家だけの物ではなく街の財産だと思ふ。木が元気であれば人は、四季折々の自然も身近に感じられる。鳥も寄ってきて豊かな自然に接することができ。木を一方的に切ってしまう。木のリサイクルを考えるとどうかと思ふ。要る人が、要らない人の絆を結ぶ何かがあればと思ふ。

リサイクルの考えの中には、ある物を大切に使い、ゴミを減らすこと(リデュース)、ある物を形を変えて繰り返し使うこと(リユース)、再使用できない場合は、原料に戻して作りなおすこと(リサイクル)という3つの考えがある。とにかく使える物は工夫や

アイデアを生かして使い、利用できないものは適正に処分することで、限りある天然資源の消費を抑制する。いわゆる循環型社会を目指す生活が求められる。

リサイクルや環境問題にふれながら、熱く生命力あふれる樹々の話に親近感を持って聞き入った11月の出会いでした。

参加者13名(富田慶子)



八面六臂の大活躍の松村さん

吾輩は樹である。名前はない。ルーツは分からない。

鳥が運んできたか、人が持ってきたのかははっきりしませんが、この田辺の地に落ちついてもう随分になります。長い間の内にはいろいろなことを見たり、体験したりしてきました。

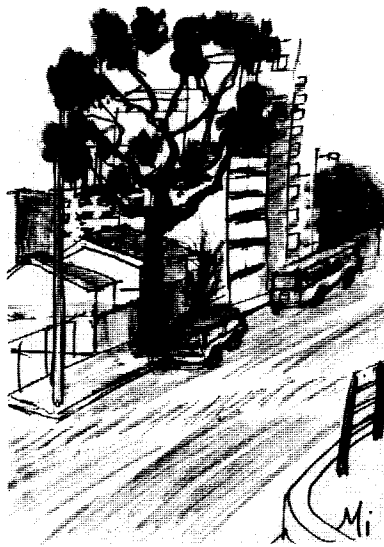
むかし、この辺りを田辺村とっていた頃、隣の阿倍野村のお百姓さんと桃ヶ池を挟んで田んぼの水のことでえらくもめたこともありました。

やがて、家が立て込んできて、田んぼが少なくなってきたけど、まだまだのどかで、はなたれ小僧がたくさん吾輩の足元に集まってワァーワァーにぎやかに遊んでいました。そうこうする内に戦火が激しくなり、近くに模擬原爆が落とされ、数人が犠牲になりました。

戦争が済んで、ものすごい勢いで車が増え、吾輩のすぐ横を走っていた平野線もな

くなり道路になってしまいました。どんどん周りは様変わりをして、気がつけば吾輩だけがポツンと取り残されたみたいで寂しいかぎりです。そしてとうとう吾輩の足元にも道路ができ、車がブンブン走るようになりました。

吾輩ハ樹デアル



そうそう、いちばんホットなところをご紹介します。セルフの溝田さんの発案で、その昔この辺りで栽培されていた田辺大根を型どったパンができたんですよ。その名前も「大ちゃんパン」っていうの。田辺大根の葉をきざんで、七味とマヨネーズでピリ辛風味に炒めたものを、食パン生地で作った胴体部分に入れ、パンの葉部分はヨモギを混

ぜた生地を使ってあるんだって。パンの色は白と緑のコントラスト。味は和風。もうすぐ販売されるようですよ。

狭い日本、そんなに急いでどこへ行く・・・
なあ、そこの兄ちゃん、ゆっくり行こう・・・
吾輩、ひと休みするで、静かに走ってね。

誰でも参加できる場所へ

第7回

日本におけるある人物から見た
コミュニティガーデンの歴史

林 典生

今回から日本におけるコミュニティガーデンについて説明したいと思います。アメリカの歴史や事例を見て日本では無理なかなあと思っているかもしれませんが、実は日本もコミュニティガーデンが昔からあり、現在では様々な場所で行われていることについてご紹介いたします。

日本ではコミュニティガーデンの名称は最近言われ始めていることですが、同じ機能は昔からありました。しかし、これを私が見つけてきたのは偶然のことでした。

当時、私自身大学生していた時に、教職の単位を取得するために大阪府立大学社会

福祉学部で開講されていた教育心理学を受講していたときに、その先生にアメリカのコミュニティガーデンの研究をしたいとの話をしていました。

その先生が昔同じような研究と実践を行っていた先生が居られるといわれ、私は早速本を借りました。日本における障害者向け園芸書「匂いの花園」と「教育園芸」という本です(どこかで再販してほしいです)。

その本を読んで私自身は1960年代の書籍なのにアメリカよりも研究と実践が進んでいるのは驚きました。さらにその先生を追っかけて論文を国立国会図書館まで検索を依頼し、できるだけかき集めると何とその先生はアメリカの発展期と同時代にコミュニティガーデンと同じ視点で提言しているだけではなく実践をしていました。

その方は大阪社会事業短期大学名誉教授 碓井隆次先生です。碓井先生は造園や建築の実践者や研究者と一緒に関西建築造園研究会を立ち上げて保育所や障害児施設で設計を行うとともに、大阪ボランティア協会と一緒に花いっぱい運動を展開していました。

その先生の考えは花づくりだけではなく、人づくりをしていくための活動であり、単に家族で園芸を楽しむだけではなく、苗を交換したり、一緒に活動することを通じて社会全体でネットワークを組んで活動を行うことを提唱し、実践していました。

つまり、コミュニティガーデンそのものの考え方をいち早く取り組んでおられた人物が日本に居られた事を意味しています。

しかし、行っている当初は変わった人扱いにされて、ようやく私がほこりをかぶっていた活動や研究を見つけて、再評価するとご遺族の方は喜んでおられました。

この一連の流れで私が感じたのは日本の中で独自の視点を行っている場合には注目されないのに、いざ海外ではやっているからといって日本に持つていくと注目を浴びるといったおかしな現象がここで垣間見られたのが面白かったです。

次回以後は日本で様々な場所で行われているコミュニティガーデン活動の現状について紹介しますので、お楽しみにしてください。

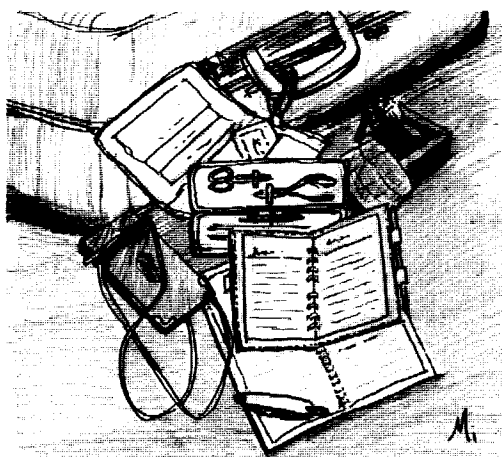
★ 持ち物リスト

「旅慣れる」という言葉がある。先月、先々月と海外に行く機会があり、飛行機、列車、タクシーと乗りついでいる間、この言葉の意味を考えていた。慣れない土地と文化にとまどいながら、言葉の通じにくい街で過ごすことは、たしかに疲れるものだが、経験を重ねるにつれて、しだいに旅慣れてくるのである。

ただ何度も行きさえすれば、それだけで旅慣れるというものでもないようだ。私は十数年前に初めて海外旅行に行つてから旅行用の「持ち物リスト」を作っている。旅行から帰ってきて、これは要らなかつたなと思うものは消して、持つて行けばよかつたと後悔したものは、つけ加えておく。そして次の旅行の準備のときに使うのである。これを何度か繰り返せば、自分にとっての理想の「持ち物リスト」ができあがる。

私の机の引き出しのなかには、そんな「持ち物リスト」が何枚もある。それぞれのリストには、そのときに行った場所と日付が書いてある。次の旅行の準備をするときには、そこから今回の旅行に似た

過去の旅行で使つたりリストを選ぶのである。冬の旅行か夏の旅行か、立派なホテルに泊まるのか、それとも安い宿に泊まるのか、仕事が主な目的なのか、観光も目的に入っているのか、そういった条件で探し



たものを組み合わせたら、たいていの旅行の「持ち物リスト」は簡単に出来上がる。たいていの海外旅行のガイドブックには「持ち物リスト」が書いてあるが、あれはあまり役にはたたない。あのリストは

万人向きであつて、いわば出来合いの服なのである。やはり自分にぴつたりのリストは自分が経験を重ねてつくつていくしかない。自分の細かな好みや、旅行にむけての微妙な思いは自分自身しか知らないものだから、誰も代わりに作つてはくれないのである。

「持ち物リスト」で興味深いのは、いくら自分にぴつたりのリストをつくらうと机の上で考えてみても、実際に旅行に行けば、それが不充分であつたことに気づくことである。つまり人間の想像力には限界があり、体験を重ねてそれを忘れないように記録し、その記録の吟味から作成するしかないということだ。この厳しい経験主義に私は奥深い魅力を感じるのである。

たとえば通勤にもこの経験主義を応用できるだろう。先日、いつもは満員であるはずの通勤電車がとても空いていた。「ああ、運が良かったな」と思えば、これは単に「運が良かった」という体験にすぎない。経験主義を重んじるのなら、私は、そのときの電車の発車時間と空いていた車両の場所をメモしておくべきだった。他

の電車の発着時間や乗り換え時間の組み合わせ、そして電車の始発駅との関係で、通勤ラッシュの間にも比較的空いている電車があるはずだ。これは複雑にからみあった電車の時刻表を眺めて考えても答えはなかなか出せないだろう。実際に自分の経験で、どこが空いていたのかを記録し、その記録の蓄積のなかから解答を見つけるしかない。

そう考えれば「持ち物リスト」の発想は生活のなかでいろいろ使えそうだ。家の掃除をするとき、外で仕事をするときなど日常生活の場面ではもちろん使えるが、長い人生を旅に見立てて、そこでの「持ち物リスト」をつくってみても面白いかもしれない。(知)



感謝



カンパ・はがき・お菓子などのご寄贈、ありがとうございます。

太田 博、大和田弓子、神城昭子、

田中美佐保、中野咲子、中村真典、

表谷恵美子、松村順子、道川内喜美子、

その他の方々、

「ふるさと劇場」を視聴して

・カ月に一度だがNHKの総合テレビに「ふるさと劇場」という番組がある。

この番組は、歌手の前川清が主になって各地のふるさとを紹介したり、ゲストの人とカラオケで歌ったりするのである。前川の話し方やしぐさが楽しくて面白いので、私は毎回欠かさず観ることにしている。

たしか十月に放映された番組の中で、前川が最後に新曲の「ひまわり」を歌い始めた時のこと。客席の前の方に車いすに乗った青年を見つけると、彼のそばへ行って肩を組みながら歌い続けた。その時、心なしか前川の両眼がうるみ、声が震えていた。青年も顔をゆがませ、上半身を動かしながらいつしようにけんめい口ずさ

晴れのち晴れ

⑤1

稲垣 恵雄

んでいる。歌い終わると、前川は自分の胸につけていた「ひまわり」のバッジをはずし、青年の胸につけてあげたのである。それを見ていた客席から一斉に拍手がわき起こった。青年は余程うれしかったのか、全身で喜びを表現しているようだった。

前川清はいつでもステージの上より客席で歌う方が多く、その時は必ずお年寄りの横で歌っていたので、私はたえず感心していた。でも今回のような光景を見たのは全く初めてだっただけに彼のお人柄の良さをよりいっそう感じることもができ、なおさら胸の熱くなる思いがしたのである。

私にとってこの一年はイヤなことばかりだったが、おかげでそんなこともいっぺんに吹き飛び、良い気分で新年を迎えられそうである。

桃栗3年、
柿8年、
サロン・あべのは
2000号

・・・・ということ、みなさまから寄せられたいろいろなお話を添えて、サロン紙にまつわるあんな事、こんな話も、ごいっしょに。

「サロン」にまつわる人達
との出会い

サロンつるみ池田美人

今から七年近く前、平成八年四月、記念すべきサロン活動の第一回目、光栄なるパネラーは「サロン淀川」の窪田さん。それが「サロンつるみ」の始まりです。

その半年程前からボランティア活動を始めていた私達にサロン活動の話を持ちかけて来たのが市杜協の脇坂さん。何だかよくわからないまま、あまり深く考えることなくサロンを始めることになったのですが、サロンの運営がいかに大変かを知るのに半年もかからなかったでしょうか。脇坂さんの畏にはめられたと気づいた時にはもうすでに手遅れ、酒宴の席で不敵に笑いを浮かべ、正しいのか間違っているのかよく判らないことを断定的に喋る脇坂さんを横目に

途方に暮れる思いでした。そうこうしているうちに一緒に設立したメンバーがひとり去り、ふたり辞め、ますます運営が大変になり、残ったスタッフの負担も大きく、存続はもう無理ではないかと心の中で何度も葛藤を繰り返していました。その頃のサロンは私にとってはノルマのようなもの、あるいは義務感のみで楽しむ余裕なんて全くなかったのです。

そんな頃、自宅に電話がかかってきました。へサロン・あべのの富田さんです。まだお会いしたこともないお顔も存じ上げない富田さん(何とこの七年近くで一度しかお会いしていません)に私はサロン運営の大変さや悩みを切々と訴えました。電話で話すたびに不安を訴えると言う厚かましい行為にも関わらず、富田さんは我慢強く聞いてくださりあの優しい声で幾度となく励ましてくださいました。その都度勇気づけられ心が軽くなり、救われる思いでした。受話器を置いた後は「頑張ってサロンを続けよう」って思いました。

「サロンつるみ」は、なかなか参加者が集まりませんでした。苦勞してパネラーさん

を探し、来ていただいて充実した中身のあ
るお話をしていただいているのにも関わら
ず、聞く人が少ないのは本当にいつも残念
でした。その頃欠かさず来てくださったの
が「ウイズ東淀川」代表の鈴木さんの奥様
でした。少ない参加者で淋しい思いをして
いた頃だったので(今でも参加者よりスタ
ッフの数の方が多いときがある)鈴木さん
が来てくださるのは嬉しかった。いつもに
こやかで優しい言葉を掛けてくださり、ま
た適切なアドバイスもいただきました。も
ちろんご主人にも何度かパネラーとしてお
話していただいたり、得意の歌とギターを
聞かせていただいたりと賑やかで面白い会
で参加者全員が楽しめる和やかな雰囲気
を作ってくださいました。

パネラー探しに行き詰まったときには、
「サロン淀川」の窪田さんにお願いまし
た今でもずつと行き詰まっている。だか
ら窪田さんは「サロンつるみ」のパネラー
回数第一位、名誉ある第一位です。こうや
って振り返ってみますとたくさんの方々の
助けがなければ今の「サロンつるみ」の存

在はなかったでしょう。サロンを始めてた
くさんの方々と出会い、いろんなことを学
びました。そして今、サロンは自分を活か
せる魅力のある場となりました。最近よう
やくサロンの本来の楽しさが判つてきまし
た(ちよつと遅いけど)。「続けてきて良かつ
た」こう思えるのもいままでお世話になつ
た皆様のおかげです。ありがとうございます

す。そして今までサロンに参加してくださ
った皆さん。皆さんによつてサロンは創ら
れ育てられてきました。本当に感謝しま
す。
最後に多くの素晴らしい出会いの「場」
であるサロン活動を提供してくださった脇
坂さんに感謝。皆様、これからも「サロン
つるみ」をよろしく願います。

サロン「アイ」と 「小さな旅」

サロン「アイ」 西浦清輝

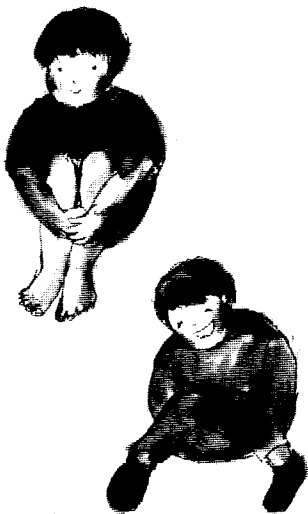
イティーとは自己確立——他とは、はつき
り区別される一人ひとりの人間の個性のこ
とです。一人ひとりの個性を大切にし、す
べての人はかけがえのない人間という意味
でサロン「アイ」と名づけました。

サロン「アイ」ももうすぐ丸四年目にな
ります。サロン「アイ」は生野区の頭文字
Iの「アイ」ですが、本当の意味はアイデ
ンティティーの「アイ」です。アイデンテ
ィティとは自己確立——他とは、はつき
り区別される一人ひとりの人間の個性のこ
とです。一人ひとりの個性を大切にし、す
べての人はかけがえのない人間という意味
でサロン「アイ」と名づけました。
サロン「アイ」では偶数月に講演会、奇
数月に「小さな旅」を実施しています。講
演会だけに参加する人、「小さな旅」だけ
に参加する人、両方に参加される人もいま
す。最近「小さな旅」には車いすの人の参
加が増えてきました。もともと「小さな旅」
は共通の思い出作りをしようという趣旨か
ら始まりました。特に年配の車いすの人は

●200号 あんな事、こんな話——魅力

サロン紙は、個人宛だけではなく、公共の施設にも部数はそんなに多くありませんが、置かせていただいております。「長居障害者スポーツセンター」や「ピア大阪」、平野の「障害者リハビリセンター」、「阿倍野区民センター」などです。ところがその場所に届くのはサロンの出会いが終わって数日後になります。どのような方が読んでくださっているか、まったく見当が付きませんが、ある時知り合いの方から「サロン紙がセンターにもうないって聞いたのだけど…」と電話がありました。その月に限って、持って行くのがたまたま遅れていたのですが、サロン紙を待っていてくださる人がいることを教えていただき、とてもありがたく思いました。サロン紙は、頁数は手頃だし、活字が小さくないので読みやすい。そして何より中味が濃く、読みごたえがある。とよく耳にします。この言葉

はサロン紙の魅力を的確に言っていると思います。私たち編集に携わるものとしていちばんうれしい言葉ではないかと思いつつながら、ありがたく拝聴しています。(け)



非常に楽しみにされています。しかし、朝から夕方までと付き合う時間が長いので、サロンの「困っていたら助け合う」という理念があります。障害者の人に対しては「介助」ということになってしまいます。介助してくれる人数が揃うかどうか心配です。すし、介護人を連れてきてもらうと、その人をずっと見てもらうことになるので、他の人との交流という点で問題があります。そういう問題もありますが、電車の中で外

の風景を眺めながら世間話をしたり、円くなって日当たりのいい所で昼弁当をみんなで食べたり、道に迷ったり、迷子になる人が出たりして、たっぷり楽しい思い出作りをしています。頼りないことですが、道に迷ったり、迷子になる人が出るのは毎回のことなのです。「責任者 しっかりしろ」といわれそうですが、安全だけは気をつけています。

最近、講演会も「小さな旅」も障害とまでも行かなくとも心に少し病を持った人や社会に適応しにくい人の参加が目立ってきました。外に向かつて何かに関心を持ち、身を委ねたりすることにより心の安定を求めておられるのだと思います。わがサロン「アイ」は他の「サロン」さんのようにスマートではありません。いろいろな人がいて、ごちゃごちゃしています。でも、私はそれが生野区の町にあっていいように思います。

植物あれこれ 第四十七回

山口康二郎

第二回 園芸福祉全国大会に出席して

「植物や園芸作業を通じて、皆が幸せになる技術、活動、実践」を目的とした日本園芸福祉普及会主催の第二回全国大会が長崎で開催され、参加しました。予想をはるかに超えた六〇〇名以上の集いで、二日間熱気むんむんの中、大会を終えました。

参加者は多岐にわたり、自治体の首長あり、厚生労働省の職員、県・市会議員、大学教授、老人福祉、障害者福祉、市民農園関係者、園芸療法士、NPO団体など、さまざまでした。

テーマは、①高齢者と福祉、②園芸療法実践と問題点、③人と癒しと植物、④園芸福祉と園芸療法、⑤都市と農村交流、⑥福祉、環境、教育 と、いずれも魅力あるものでした。福祉社会といわれる今日、園芸を福祉の中でどう生かすか、真剣に話し合いました。

記念講演はNHK「趣味の園芸」の司会者柳生真吾さんでした。

「園芸は楽しい」と題した講演で、うなずくことが多々ありました。氏は三十四歳の青年ですが、植物に対する考え方は尊敬に値します。氏の住んでいる山梨県の八ヶ岳での生活は自然との対話そのものだと実感しました。

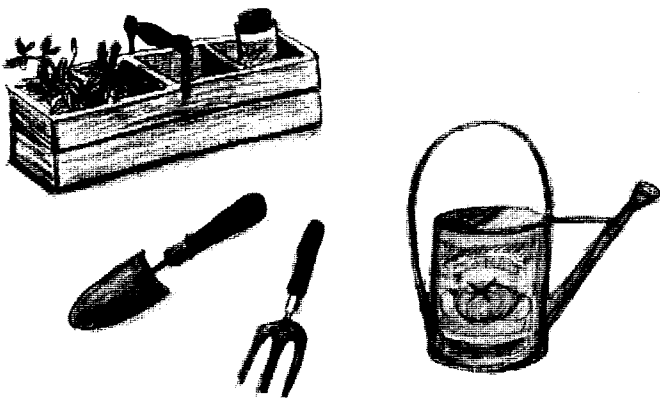
講演の中で、園芸の極意とは、①その場（花壇）に足を運ぶこと、②花と毎日顔を合わせること、③楽しい理由をつけて夢中になること、の三つであると話されました。そして、とことん好きになれば、それに対する勉強が苦にならなくなり、次々と興味が広がって、今は観葉植物にはまっているんです。と、あの柔和な顔を一層ほころばせておられました。

その日の夜の交歓会の席で、私が障害者といっしょに園芸療法をやっていることを、氏に話すと大変興味を持たれ、いろ

いろ話が弾みました。そして、一度八ヶ岳へ障害者といっしょに来てくださいと、熱心なお誘いを受けました。ぜひ実現したいと思っています。

テレビで見る印象とまったく変わらない柔和で聞き上手なお人柄は、私の師匠、故・山野忠彦先生に共通するものを感じました。

「愉しくないと園芸と自然は結びつかない」氏のキーワードです。



美智子のこんな話

岸田美智子

もう一度、MY-DO(まいど)公開セミナーのお知らせ

前回、このコーナーでお知らせしました「自立生活センター(まいど)」の公開セミナーですが、当日は手話通訳を付ける事ができるようになりました。

現在、十月ぐらいから支援費制度へ移行のための申請手続きが始まっています。でも聞くところによりますと、ある施設の職員が四、五〇人の施設障害者の申請用紙をまとめて区役所の窓口へ提出

していたり、ヘルパー派遣会社が利用者の障害者の家を申請書を持ってまわったり、しているそうです。このような代理申請は、あまり良い傾向ではないのではないのでしょうか？

本当に一人ひとりの障害者の方が自分に必要な介護保障を具体的に要求していきたいものです。

今が、そのチャンスなので。そのためにも、この公開セミナーに一人でも多くの方々が参加していただけたらと思っています。みなさんのご参加をぜひお待ちしております。

記

日時：二〇〇三年一月十八日(土)

午後一時～四時三十分

場所：住吉総合福祉センター 大広間

住吉区帝塚山東五ノ八ノ三

南海高野線「住吉東」駅下車

徒歩五分

テーマ：これが支援費制度！ どうなる障害者の生活？

講師：古田朋也氏(障害者の自立と

完全参加を目指す大阪連絡会
議事事務局)

大阪市障害福祉課よりの予定
資料代：五〇〇円

手話通訳有り、必要な方は事務局まで
連絡先

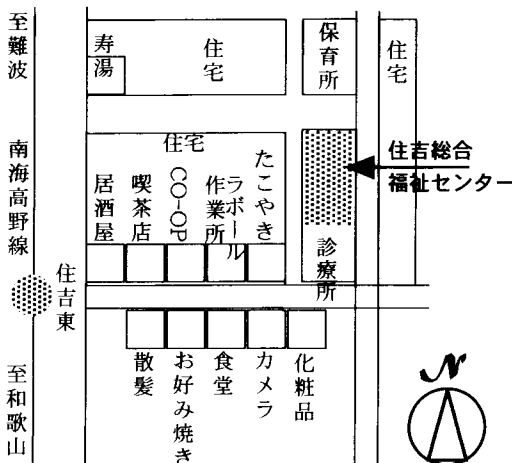
○自立生活センター・
MY-DO(まいど)(岸田)

大阪市住吉区長居西一ノ九ノ十二

TEL 〇六-六六〇九-三三三三

FAX 〇六-六六〇九-三三二一

E-mail: cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp





サロン隣組ニュース

こちらで用意しています。

会費:なし

問い合わせ先:関口 ☎090-4281-5641

■「サロン淀川」1月の社会い

日時:1月19日(日)午後1時30分~4時

場所:淀川区民センター「やすらぎ」

大阪市淀川区三国本町2-14-3

内容:イタリア歌謡・カンツォーネの魅力ごせまります
~愛の別り、もっともっと愛して、他、オリジナル曲
多数~

出演:森ヒロム氏(カンツォーネシンガー)

会費:なし

問い合わせ先:淀川区社協(ボランティア・ビューロー)

☎06-6394-2900

E-mail:soraji@tris.ecnet.ne.jp

■「サロン・ひらの」1月の社会い

日時:1月25日(土)午後1時30分~4時

場所:にこにこセンター

大阪市平野区平野東2-1-30

内容:未定

会費:未定

問い合わせ先:平野区ボランティア・ビューロー

大西 ☎06-6795-2200

■「サロン・にし」1月の社会い

日時:1月11日(土)午後1時30分~4時

場所:西区ボランティア・ビューロー室

大阪市西区新町4-5-14 6階(西区役所隣)

地下鉄=西長堀駅4A号出口からすぐ

市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ

内容:みんなで書き初めをしよう!

*習字道具をお持ちの方はご持参ください。ない人は

■「サロン・にしよど」1月の社会い

日時:1月25日(土)午後1時30分~3時30分

場所:西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」

大阪市西淀川区千舟2-7-7

内容:一夜宮女祭のおぼなし

講師:鎌田義昭氏(豊野神社 宮司)

会費:なし

問い合わせ先:西淀川区在宅サービスセンター

緒方 ☎06-6478-2941

■「サロンいたみ」1月の社会い

日時:1月18日(土)午後2時~

場所:伸幸苑 伊丹市寺本町6-150

内容:アルノのコンサート

会費:なし

問い合わせ先:砂脇 ☎0727-84-0057 (午後7時以降)

■「ウイズ東淀川」1月の社会い

日時:1月12日(日)午後1時30分~4時

場所:東淀川区在宅サービスセンター「ほほえみ」

大阪市東淀川区菅原4-4-37 ☎06-6370-1630

内容:お喜蘇で祝新春カラオケフェスティバル!

今年も例年どおりカラオケ人好き仲間大集合

ゲスト:石浜みどり氏(大川音楽事務所所属・西日本歌謡音楽

祭東西代表・2002年5月キングレコード「ねえもう

一杯」未練ごころ)でデビュー)

会費:なし

問い合わせ先:鈴木昭二 ☎06-6340-3082

FAX06-6340-3012



絵はがき

1封 5枚組 ¥180

声で読書のお手伝い



音訳グループ「糸でんわ」のご協力で〈サロン・あべの〉紙第197号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) 〈サロン・あべの〉紙は、第1号より第197号までそろっています。
- (b) 〈サロン・あべの〉十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「〈サロン・あべの〉平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)

- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ぼけっと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (o) 「もうちょっと知っとく？ 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「勁くしずかに」(河野勝行 編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳)

ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田 (☎06・6691・1028) まで。

From EDITOR 編集後記

セルフへの途中に、塀の上にちょっと頭が見えるくらいの背丈の桜の木がある。幹は見えないが背丈から推して大体のところは見当がつく。この桜、樹齢ウン百年の大木に引けを取らないくらい、季節になれば立派に花をつけ、ちょうど今、葉が真っ赤になっている。新しかろうが古かろうが、木ってすごいな、きっちり活きたるんや……。好きな木の一つである。(石)

〈サロン・あべの〉Vol.198 発行：平成14(2002)年12月21日 定価¥100
 編集人：〈サロン・あべの〉運営委員会 表題：井上憲一・筆 文中イラスト：石田美禰子
 事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方 〈サロン・あべの〉
 TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
 印刷：セルフ社〒546-0044大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2階TEL06-6719-8212